ながい
「小さな親切」の会だより

第１０号
発行者 長井「小さな親切」の会
事務局 山形銀行長井支店内
〒993-0084
長井市栄町１１－１４
☎ 0238-88-2105

本会設立五十周年にあたり、「小さな親切」運動の理念を大切に！

長井「小さな親切」の会
会長 大竹 仁

近年は、少子高齢化や価値観の変化の中で地域や人とのつながりが薄れていく現状にあります。本会設立五十周年にあたり、「日常生活において誰もができる小さな親切を通じて、思いやりの心を広め、より良い社会を築くことを目指す」という、「小さな親切」運動の理念を改めて大切にし、本会の活動を一層充実したものにしていきたいと考えております。

令和八年度も、各事業を推進してまいります。

①「小さな親切」運動の中心にしている、「実行章の推薦活動」に力を入れていきます。将来を担う子ども達はもちろん、地域の中の「親切さん」を見つけて事務局に推薦をお願いいたします。

②人と人との心をつなぐ挨拶運動を推進いたします。
運動の中心校として、長井市立伊佐沢小学校に推進学校を依頼し推進いたします。

③八月四日（火）、クリーン大作戦「つつじ公園周辺清掃」を実施いたします。

④「車椅子」を贈呈いたします。
今年も、会員皆様の温かな心を車椅子に乗せて、本会設立五十周年記念事業として、「山形鉄道株式会社」と「社会福祉法人弘徳会」にそれぞれ一台贈呈いたします。

⑤作文コンクールや立て看板の設置等も実施いたします。

⑥最後に、本会設立五十周年記念事業として、「創立五十周年記念誌」を発行します。

今年も、『花の長井に「親切の花」をいっぱい咲かせることができますように』、皆様の一層のご理解とご協力を心からお願い申し上げます。

会員の皆様には、日頃より、長井「小さな親切」の会の活動に温かなご理解とご支援・ご協力を賜り、誠にありがとうございます。

昨年度は、山形県本部設立五十周年の記念の年として、山形県の歩みを振り返るとともに、長井市が重点戦略の一つとして掲げております「世代を超えて支え合うまちづくり」受け、本会でも長井のまちに「親切の花」をたくさん咲かせることに努めてまいりました。

○実行章の贈呈。学校の部では、一団体、個人四十五名、一般の部においても、長きにわたり地域で登校の見守り活動を続けていらっしゃる一名の方に贈呈いたしました。

○八月にはクリーン作戦を実施。つつじ公園周辺の清掃活動には、二００名を超える会員の皆様、市民の皆様にご参加いただき、一段とまちをきれいにすることができました。

○十月には、皆様の温かな心を車椅子に乗せ、「タスパークホテル」「道の駅 川のみなと長井」に県本部設立五十周年記念事業からの贈呈分を含め、それぞれ一台の車椅子を贈呈いたしました。

○「小さな親切」作文コンクールの表彰。昨年度は全国優良賞一名を含め、小中学校から十六編が地区優秀賞、入選を受賞しました。

皆様のご協力に心から感謝を申し上げます。

さて、令和八年度は、長井「小さな親切」の会が村山秀雄初代会長を中心に昭和五十一年四月に設立されてから、五十周年となります。その間、平成十五年には、長井市が「小さな親切」推進都市を宣言するなど、長きにわたり、本会の取組みが市民ぐるみの運動として位置づけられ、継承されてきました。

「小さな親切」八か条＋ＯＮＥ

1 朝夕のあいさつをかならずしましょう。
2 はっきりした声で返事をしましょう。
3 他人からの親切を心からうけ入れ、「ありがとう」といいましょう。
4 人から「ありがとう」といわれたら、「どういたしまして」といいましょう。
5 紙くずなどをやたらにすてないようにしましょう。
6 電車やバスの中でお年寄りや、赤ちゃんをだいたおかあさんには席をゆずりましょう。
7 人が困っているのを見たら、手つだってあげましょう。
8 他人のめいわくになることはやめましょう。
9 人をいじめることはやめましょう。

令和七年　第五十回全国「小さな親切」作文コンクール

優良賞　親切するって気持ちがいいな

豊田小学校　三年（七年度）　今野　美羽

「どうすればいいのかわかんないよ。」

小さくつぶやく声が聞こえてきました。総合の授業で、グループに分かれて調べ物をしている時でした。タブレットでキュウリの育て方を一人ひとり調べていたのです。

つぶやいた男の子は、どのキーをおせばよいか、何という言葉を入力すればよいか分からなくて、あせっているようでした。同じグループのみんなは、自分が調べることに必死の様子です。「なんとかしなければ・・・。」と思うのですが、心のどこかで、声をかけて教えても、うまく伝わらなかったらどうしよう。それに、私が調べる時間も少なくなって終わらないかもしれない。二つの心がけんかしているようでした。

その時、算数の時間のことを思い出しました。わり算のむずかしい問題でつまずいていると、友達がゆっくりとわかりやすく説明してくれたので、とてもよく分かったことがありました。今度はわたしの番だと思い、

「わたしが教えてあげるから大じょうぶだよ。」

と声をかけました。わたしは、困って泣きそうになった男の子を助けられるかもしれないと思い、どきどきしました。

「ここに『キュウリの育て方』と文字を入れてみて。そうそう、そうだよ。」

あせっていた男の子の顔が、少しずつ落ち着いてきたように見えました。まわりの友達と同じように進められて、とてもうれしそうでした。男の子はにっこりして

「美羽さん、分かりやすかったよ。一人でもできるよ。ありがとう。」

その言葉を聞いて、友達を助けられたらいいなという気持ちが伝わったような気がしました。

男の子は、「キュウリの育て方」の中でも、「苗の植え方」に力を入れて調べるなど、自分でタブレットを上手に使って進めていました。

わたしは、男の子に教えることにむ中なっていたので、自分のまとめが終わらないうちにチャイムがなってしまいました。「しまった！まずい！人に親切にすることは、ちょっとむずかしいな。」でも、それ以上にわたしの心は晴れ晴れしていました。

人に親切にすることでお礼を言ってもらい、心がぽかぽかしたり、自分が教えたことで、友達が何かをできるようになるのを見てうれしくなったり、親切をすることってとても気持ちがいいものだなあと思いました。それに今回のことで、私の心が成長したように思うのです。今までのわたしなら、自分のまとめができなかったことをくやしく思い、やり方を教えないで自分のことをやればよかったと思ったはずです。でも、今までの自分ではありません。人に親切にすることの喜びを感じることができました。親切にした人にも、された人にも幸せな気持ちになるので、たくさんの親切の輪が広がるといいなと思います。

令和七年　長井「小さな親切」の会作文コンクール

優秀賞　将来への親切

長井南中学校　二年（七年度）　保科　友里

「二度とその夢を語るな。」

これは私の中で心に刺さりながらも親切だと思えた言葉です。

中学一年生の時でした。私の学年では授業参観日に「夢発表」という将来の夢をクラスメイトや保護者の前ではっぴょうするというものがありました。私はその時まで自分の将来について考えたことがあまりなく、小学一年生などの低学年の頃は、お花屋さんやパティシエになりたいなどと、瞬時に決めたことを周りに言っていたため毎回違いました。なので夢発表をすると決まった時は「めんどくさ」「なんでこれなの」と友達と話していましたが、言葉とは裏腹に「夢ってなんだっけ」と自分に問いかけていました。

私は発表準備の時間にタブレットで「職業ランキング」と検索すると「獣医」という文字が目に入りました。私の父は獣医なのでこの職業は自分の身近にある職業でした。父にはいろいろ仕事の話を聞くので一番書きやすいと思い、獣医にしようと軽い気持ちで決めました。

発表の日は父もいて緊張しましたが練習したとおりにでき、授業参観は終わりました。家に帰ると家族から「友里の夢って呪医なの？」と驚いた顔で言われ、私は、「うん」と答えました。学校でも同じことでそのたびに「すごいね」「絶対なれるよ」と言われました。だんだん自分は「何もしなくても周りに評価される」と勝手に思い込み、勉強はおろそかになり、家の手伝いも適当になっていきました。それを見ていた父は私に怒り、礼儀や勉強のことで以前よりも厳しくなりました。私は注意されるのが嫌だったので、父のいるところだけはいつも以上に頑張り、いなくなったら適当を繰り返していました。それが身に付き、誰も見ていないと何もかも適当が自分の中では当たり前になっていきました。

ある日、父が仕事から帰ってくると、ご飯を食べないまますぐに寝たことがありました。私は気になり母に尋ねると「ネコちゃんが死んじゃったんだって。」と教えてくれました。

次の日、父に呼び出され、唐突に「獣医に本当になりたいか。」と問われました。

「獣医は命を扱っているんだから簡単じゃないんだ。人が見ている時だけ頑張って褒められたいなら職業を変えたほうがいい。」「二度とその夢を語るな」真剣な顔で言われ話は終わりました。私は動物の命を扱っている父の仕事の苦労を軽く見ていたんだと心の底から後悔しました。

それから月日がたち、私は職業について改めて考え努力しています。そんな私の将来の夢は獣医です。父には些細なことで毎日注意されます。でも、注意してくれる小さな親切が、私が大人になった時に大きな親切に変わると思っています。

怒られることも親切とすれば「親切」って無限大にあると思いませんか。